

## 事務事業評価シート

評価対象年度 平成 21 年度

## 【事務事業の基本的事項】

事務事業名	スクールカウンセラー活用調査研究事業費			
担当課係名	学校教育課	学校教育係	作成者	渡辺久信
総合計画での位置づけ	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち		総合計画のページ 93
	基本計画	学校教育の充実と教育環境の整備		
	主要施策	基礎学力の向上と心の教育の充実		
予算費目	一般会計	10款 教育費	3項 中学校費	1目 学校管理費
事業期間	平成 年度 ~ 平成 年度	新規/継続の区分		継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理			
根拠法令等				
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営(一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託(全部) <input type="checkbox"/> 補助			

## 【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市内の幼稚園・保育園・小学校・中学校・高等学校の児童生徒及びその保護者、市民
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	市内の児童・生徒・保護者・市民の心の悩みの解決への支援
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	臨床心理士(財団法人日本臨床心理士資格認定協会の認定による)による、カウンセリング

## 【事務事業の推移】

		項 目	単 位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	
効果	活動指標	カウンセリング回数	目標	回	33	61	50
			実績	回	33	61	50
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%
	成果指標	カウンセリング時間	目標	h	39	71	50
			実績	h	39	71	50
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%
投下コスト	項 目		総事業費	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	21年度決算額(千円)	
	事業費(人件費を除く)(A)			310	525	445	
	人 件 費 (B)			4,036	396	403	
	職 員 数			0.50	0.05	0.05	
	職 員 平 均 人 件 費			8,071	7,925	8,057	
	(A)+(B) 投下コスト			4,346	921	848	
	財源内訳	国 庫 支 出 金			0	0	0
		県 支 出 金			0	0	0
		地 方 債			0	0	0
		そ の 他			0	0	0
一 般 財 源			4,346	921	848		
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)			131,697	15,098	16,960	
	市民1人当たりのコスト(円)			138	30	28	

【事務事業の今までの成果】

小中学生及びその保護者以外にも、就学前児童の保護者、高校生からの相談があり、悩みの解消が図られた。また、市所属のスクールカウンセラーがいることにより、迅速に心のケアが必要な生徒への対応が可能だったケースがあった。各校での講演や講話等により悩みの予防効果があった。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	子どもたちや保護者を取り巻く環境の変化にあわせて、臨床心理士によるカウンセリングを重視する傾向が強くなっている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	県の事業では対象にならない就学前児童、高校生とその保護者がカウンセリングを受けることができる。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続（実施）	すべての要素において、ほぼ実施すべき評価となったため、A評価とした。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

--

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	児童や保護者を取り巻く環境に合わせた心のケアは必要であり、今後も継続すべきと考えます。

